

江蘇省4都市でスペシャルイベント 国交正常化45周年記念し9月と10月に

中国の江蘇省で今年9月から10月にかけて、日中国交正常化45周年記念スペシャル企画「中日友好観光交流月 in 江蘇」が開催されます。江蘇省人民政府、江蘇省旅遊局、中国国家観光局駐日本代表処の主催、南京市旅遊局、蘇州市旅遊局、揚州市旅遊局、南通市旅遊局、日本旅行業協会（JATA）、全国旅行業協会（ANTA）が共催。

日本と中国の間では、2017年の日中国交正常化45周年に続き、2018年には日中平和友好条約締結40周年を迎えることになり、日中国は政治、経済、文化、観光など各方面で交流を深めてきました。

中国国家観光局駐日本代表処の羅玉泉駐日首席代表は、「中日友好観光交流月 in 江蘇」について、「江蘇省旅遊局としては、国交正常化45周年を契機

として日本の皆さんにもっと江蘇省を知っていただきたいという趣旨からスペシャル企画としてのイベントを開催することになりました。日中両国における旅行業界間の交流や協力関係を深める場にもできればと考えています」と語り、イベントの派生効果への期待も示しています。

昨年11月には、来日した中国国家観光局の李金早局長と石井啓国土交通大臣との間で、双方向の観光交流の拡大などを内容とする覚書が締結されており、(1) 地方間交流(2) 青少年交流、(3) 文化・スポーツ交流の3分野における協力が日中間の「3つの架け橋」としての役割を果たすことが確認されました。

羅主席代表は、「この覚書に基づいて日中両国がそれぞれの中央政府、地方政府、関係機関等と連携して、3つの分野で双方向の観光交流を拡大していくための取り組みを共同で推進していくわけですが、江蘇省でのスペシャル企画イベントは、覚書締結後の地方間交流促進を図る最初の大きな取り組みということになります」と説明しています。

現地の食・文化や旅行祭を目玉に

「中日友好観光交流月 in 江蘇」では、南京、蘇州、揚州、南通という江蘇省の主要4都市で旅行祭や現地の



日本人旅行者に変わらぬ人気の「水の都」蘇州。平江路には昔ながらの風情が漂います



南京にある牛首山仏頂堂の禪境大観。面積は6000平方メートル以上、高さも約38メートルという広大な空間に禪文化が表現されています



2015年12月に開園した大報恩寺遺跡公園。壮大で美しい瑠璃塔は「世界7大奇観」の一つとされています



中国では「大闸蟹」と言われる上海蟹は、蘇州・陽澄湖産が最高級とされています

食・文化などを組み込んだイベントが開催される予定です。「二城一塔二河白中友好博愛の旅」をテーマに掲げて10月14日に南京で開催されるイベントでは、大報恩寺遺跡公園を訪れて1000年にわたる「報恩」